

平成 29 年度  
横浜市立高等学校  
自己評価書

横浜市立横浜サイエンスフロンティア  
高等学校附属中学校

## <学校情報>

1 課程・学科 \_\_\_\_\_

2 学校長 栗原峰夫 (平成 29 年 4 月 1 日現在 在職 6 年目)

### 3 学校教育目標

- 1 広い視野、高い視点、多面的な見方を身につけさせ、ものごとに対する柔軟な思考力・解析力を培い、論理的頭脳を養う。
- 2 旺盛な探究力、豊かな創造力、世界に通じるコミュニケーション能力、自立力を培うことによって、よりよく生きる智慧を養う。
- 3 社会における己の使命を自覚し、積極的に社会に貢献しようとする志を養う。
- 4 人格を陶冶し、有為な社会の形成者としての品格を養う。
- 5 幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな心身を養う。

### 4 教育方針

驚きと感動による知の探究

《教育理念》

学問を広く深く学ぼうとする精神と態度を培いながら、豊かな社会性や人間性を育みます。生徒一人ひとりが持つ潜在的な独創性を引き出し、日本の将来を支える論理的な思考力と鋭敏な感性を養い、先端的な科学の知識を基にした智慧や技術・技能を活用して、グローバルリーダーたる「サイエンスエリート」育成します。

### 5 教職員数 (平成 29 年 12 月 1 日現在)

学校長	<u>1</u>	校長代理	<u>1</u>	副校長	<u>1</u>	事務長	_____
教諭	<u>5</u>	(男	<u>4</u>	、女	<u>1</u>	)	養護教諭 <u>1</u>
実習助手	_____	事務職員	<u>1</u>	技能職員	<u>PFI</u>		
A E T	_____	非常勤講師	_____	管理員	<u>PFI</u>		

6 生徒在籍数（平成 29 年 12 月 1 日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	2	40	40	80
2				
3				
4				
合計				

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		8	8	100%
生徒	1年	80	79	98%
	2年	0	0	
	3年	0	0	
	4年	0	0	
	合計	80	79	98%
保護者		80	80	100%

8 自己評価実施日

教職員	平成 30 年 1 月 5 日～平成 30 年 1 月 12 日
生徒	平成 29 年 12 月 25 日～平成 30 年 1 月 12 日
保護者	平成 30 年 1 月 9 日～平成 30 年 1 月 12 日
地域	平成 29 年 11 月 17 日～平成 30 年 1 月 29 日

9 集計・分析期間

平成 30 年 1 月 23 日～平成 30 年 2 月 10 日
-----------------------------------

10 自己評価書の公表方法・時期

○集計結果は平成 30 年 2 月下旬、分析については、平成 30 年 5 月中旬以降  
本校ホームページで公表の予定

## <自己評価>

### 1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

#### □魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 1, 2, 3, 13, 14 生徒Ⅱ-1 保護者Ⅰ-1, 2)

取組	<ul style="list-style-type: none"><li>○中高一貫教育による国際社会で活躍する人材の育成に向けて、6年間の計画的で継続的な教育活動の充実・推進に努めている。</li><li>○「スーパーサイエンスハイスクール」、「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受け、「先端科学技術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人間の育成」を目標としている横浜サイエンスフロンティア高校の附属中学校として、グローバルリーダーたる*1「サイエンスエリート」の育成を図っている</li><li>○高等学校の*2サイエンスリテラシーや*3グローバルスタディーズにつながるサイエンススタディーズ（総合的な学習の時間）やフロンティアタイム（本校独自の週2時間の授業。自主研究、読書活動、進路探求、相談・面談を通して豊かな感性を育み、自分自身を開拓する時間）を設定している。</li><li>○「サイエンスエリート」に必要な*4「サイエンスの考え方」を育むために、物事を正確に捉えて考察し討議する「Discussion」、仮説を立てて論理的に実証する「Experiment」、フィールドワークなど実体験から学ぶ「Experience」、自分の考えや意見を正確に相手に伝える「Presentation」を繰り返すDEEP学習を授業に取り入れ、探究心を養いながら知識と智慧のサイクルのスパイラルアップを図っている。</li><li>○中高一貫教育を推進するために、国語・社会・数学・理科・英語の授業で少人数授業又はティームティーチングを行い、中学と高校の教員で指導している。</li><li>*1・・・次世代の日本を担う使命感を持ち、科学的リテラシーを身に付け、物事をやり通す強い精神力や活動の源である体力を備えた国際社会で活躍する人材。</li><li>*2・・・スーパーサイエンスハイスクールとしての課題研究型授業。1年次で科学的な見方・考え方、探究活動の基礎を学び、2年次に課題研究を行う。</li><li>*3・・・スーパーグローバルハイスクールとしてのグローバルリーダーを育成する授業。1年次に世界的な視野を身に付け、2年次に課題研究を行う。</li><li>*4・・・サイエンスを学ぶことによって培われる考え方。正確な観察や実験、体験、情報の整理・分析などを合理的・総合的に進めるもので、科学のみならず、様々なものの考え方の基本につながる。</li></ul>
----	--

<p style="text-align: center;">成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○魅力ある高校教育の推進に係る教職員アンケート結果では、肯定的な回答が 100%となっている。これは、着任者研修や職員研修会、本校常任スーパーアドバイザーの和田昭允先生及び特別科学技術顧問の小島謙一先生との懇談などを通して、本校の教育理念、教育目標及び教育方針並びに市民のニーズを教職員がしっかりと理解し、実践している結果である。（集計表 1、2 ページ教職員アンケート 1, 2, 3, 13, 14）</li> <li>○保護者アンケート項目「様々な教育活動を通して、先端科学技術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人材を育てている。」、「中高一貫校として、特色のある教育課程が計画的・継続的に展開されている。」において、90%以上が肯定的な回答で、そのうち約 60%が「そう思う」と回答している。基盤形成期である中学生が、質の高い経験や豊かな感動を仲間とともに経験し、科学の楽しさや知る喜びに気付き、充実発展期である高等学校へつなげるために、本校の特色である DEEP 学習やサイエンススタディーズ、フロンティアタイム、校外研修などの教育活動を充実させていることについて保護者の理解を得ることができている結果である。（集計表 5 ページ保護者アンケート教育活動等について 1, 2）</li> <li>○高校の教員も教科指導や部活動指導を行うことにより、生徒観、中学生の保護者観、及び 6 年間の継続的な授業観や指導観を中学の教員と共有することができている。</li> <li>○生徒アンケート項目「本校の生徒であることに誇りを感じている」において 95%が肯定的な回答で、そのうち 81%がそう思うと回答している。（集計表 3 ページ生徒アンケート学校生活等について 1）</li> </ul>
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者アンケート項目「中高一貫校として、特色のある教育課程が計画的・継続的に展開されている。」において、「分からない」と回答した保護者から「29 年度開校のため“継続的”の観点では、現時点で何とも言えないので“分からない”としました。現在の方針が継続的に展開することを期待しています。」という意見があった。30 年度以降も教育理念や教育目標、教育方針、そして中高一貫を全職員で意識して取り組むことが必要である。（集計表 5 ページ保護者アンケート教育活動等について 2）</li> <li>○中高一貫教育を推進するために、高校の教員が中学で授業をしているが、今後は中学の教員が高校で授業をすることも考えられる。中高の教員が一体となって中高一貫教育を推進できる人事配置が課題である。</li> </ul>

改善策	<p>○附属中学校についても「平成30年度 学校経営方針（案）」（学校運営協議会での議決を経て確定）に新たに策定し、「本校の教育理念に沿った学校経営を推進するとともに、教職員の指導力と学校の組織力をさらに向上させ、中高の融合を目指した体制づくりを進める」「中高一貫教育校としての教育活動を積極的に推進する」ことを位置付けた。</p> <p>○附属中学校の「平成30年度 経営方針の重点（案）」（学校運営協議会での議決を経て確定）においても、「学校の組織力向上」として「中高一貫企画推進会議を中心に、中高の融合を目指した教育を検討、実行する」ことを位置付け、平成31年度に附属中学校が3学年構成になることに向けて、課題を発見・整理するとともに、着実にシステムの構築を行っていく。</p> <p>○今年度は中学の教員が高校の授業を担当している。また、時間割等の調整に加えて、新学習指導要領の実施に向けての検討等のため、教育課程委員会にも中学の教員（中学副校長・中学教務主任）を加え、授業のみならず学校組織のあらゆる場面において中高の教員が一体となって学校運営に取り組む体制をより強化していく。</p>
-----	--

## 2 教育活動の状況

### □教育課程の状況

（関連アンケート番号：教職員 2, 3, 4, 5, 6 生徒 I-5 保護者 I-1, 2）

取組	<p>○「サイエンスの考え方を養う」「豊かな社会性や人間性を育む」「次代を担うグローバルリーダーを育てる」を基本方針とした教育課程を編成した。</p> <p>○中高一貫校の特色を生かし、6年間の継続的な学びを行うために、6年間の前半3年を「基盤形成期」（中学校1～3年）、後半3年を「充実発展期（高等学校1～3年次）」と位置づけて教育課程を編成した。</p> <p>○各教科では、探究力を育てる授業として内容を深く掘り下げ、生徒の興味関心を引き出すDEEP学習を進めている。</p> <p>○総合的な学習の時間に実施する「サイエンススタディーズ（Science Studies）」は、自然科学や社会科学を核とした課題探究型の学習として、本校独自の教育課程を編成した。具体的な取り組みとしては、各教科による特別授業、博物館見学、企業講演会、工場見学、地層見学、プログラミング実習や校外宿泊研修に向けた事前学習を行った。</p> <p>○教育成果の発表場面として文化祭では中学生の学習成果物を展示し、生徒によるプレゼンテーションも行った。</p>
----	---

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集計表 5 ページ保護者アンケート 1, 2 の項目で 90%以上の肯定的な評価を受けており、特色ある教育課程の展開による教育活動が生徒を世界で幅広く活躍する人材育成に繋がっているものと受け止められている。</li> <li>○DEEP 学習、サイエンススタディーズの課題解決学習やプレゼンテーションを高い頻度で行ってきたことにより、生徒の「読解力」「情報活用力」「課題設定力」「課題解決力」「発表力」は着実に育成されつつある。</li> <li>○集計表 2 ページ教職員アンケート 2, 3, 5, 6 の項目で、肯定的な評価の合計はそれぞれ 100%であり、教育課程が学校教育目標や市学習指導要領、生徒の実態に合わせて編成を工夫し、生徒にとって分かりやすい授業展開を行っている。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開校初年度ということもあり、計画し実践してきた教科指導や指導計画には細部において改善の余地があり、カリキュラムマネジメントを継続的に行っていくことが必要である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラムマネジメント研修会を行う。</li> <li>○カリキュラムの見直しを行う。</li> <li>○指導と評価の一体化、評価の精度向上について研修を行う。</li> </ul>

## □生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 8, 9 生徒 I-3 保護者 I-5)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○規範意識を高めるとともに生徒の自主性を伸ばすことを考えて生徒指導を行った。</li> <li>○様々な問題についてクラスや学年全体で話し合い、リーダーを中心に具体的な方策を考え実行した。</li> <li>○5月、9月、1月の年3回、生徒一人ひとりと担任を中心とした教師が教育相談を行った。</li> <li>○生徒からの相談や、元気がなく悩んでいるような生徒に教師から声をかけ随時教育相談を行った。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で考え主体的に行動できる生徒が増えてきた。</li> <li>○学年全体での話し合い活動を通じて学年としてのまとまりが強くなった。</li> <li>○教育相談を通じて、生徒と教師の相互理解が深まった。</li> <li>○生徒が困ったり悩んだりした時に、教師が相談にのる体制をつくることができた。</li> </ul>

課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活に慣れても規範意識を維持・向上するための取組を継続的に 行っていくことが必要である。</li> <li>○「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっ ている。」（集計表3ページ生徒アンケート学校生活等について3）の 項目の数値を上げることが課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶をきちんとすることや登下校の際のマナーなどの基本的な生活習 慣や規範意識を改善するためには、教職員が日々の生活の中で継続的 に指導していくことが必要である。教職員が共通の意識を持ち、粘り 強く取り組んでいきたい。</li> <li>○SNSの利用については、講演会を定期的に行うことで正しく安全に 利用する知識を広めるとともに、保護者と連携して対応していきたい。</li> </ul>

### 3 学校経営の状況

#### □組織運営及び教職員研修の状況

（関連アンケート番号：教職員 15, 16, 17, 18 生徒 保護者）

取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高一貫教育を推進するため、中高の教職員が教育課程・教育内容・ 学校行事・生徒指導・進路指導等について企画・立案・実施・検証・ 改善を重ねるための機関として、「中高一貫企画推進会議」を設置し た。構成員は、校長、校長代理（中高）、副校長（中高）、高校代表 2名（教務主任、総務主任）、中学校代表2名とした。</li> <li>○中高合同で職員会議や職員研修会を開催し、本校の教育理念や教育目 標に共有するとともに、発達障害、生徒指導、教科指導等についての 研修を行った。</li> <li>○ベテランの教職員に対して適材適所の人事配置を行い、スムーズな学 校運営を図った。</li> <li>○29年度の開校に伴い、横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中 学校の学校運営協議会を設置した。</li> <li>○常任スーパーアドバイザー及びスーパーアドバイザー、特別科学技術 顧問、科学技術顧問、指導部国際教育等担当部長、高校教育課、中高 の管理職で構成する科学技術顧問会議を開催した。</li> <li>○常任スーパーアドバイザー及び特別科学技術顧問、高校教育課指導主 事、中高の管理職で構成する幹部会を毎月開催している。</li> </ul>
-----	--



<p style="text-align: center;">成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高一貫企画推進会議で、29年度に開校した本校に学校保健委員会を30年度から設置するとともに、高校にも同組織を設置することとした。</li> <li>○中高合同で職員会議や職員研修会を開催したり、適材適所の人事配置を行ったりした結果、教職員アンケート項目「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。」、「会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。」において、肯定的な回答が100%となっている。（集計表2ページ教職員アンケート15,17）</li> <li>○適材適所の人事配置を行った結果、教職員アンケート項目「各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。」において、肯定的な回答が100%で、そのうち75%がそう思うと回答している。（集計表2ページ教職員アンケート16）</li> <li>○科学技術顧問会議の開催や学校運営協議会の設置により、大学や研究機関、企業との連携を進め、本校の特徴であるサイエンス教育を推進する立場から具体的な提言と実行への積極的な協力を得ることができている。科学技術顧問である京三製作所での校外研修を実施することができ、先進の技術と高い品質で社会の発展と快適性向上に貢献する在り方について学ぶことができた。</li> <li>○幹部会を開催し、学校運営や教育内容の改善・充実及び生徒の健全育成に取り組み、学校の活性化を図ることができている。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員が6名のため、一人当たりの校務が多く、負担が大きかった。</li> <li>○30年度以降は、入学者選抜業務について中高で共有し、業務を調整することが必要である。</li> <li>○教職員アンケート項目「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。」において、2人の教職員が「あまり実現できていない」と回答している。校内の研究・研修体制の更なる構築が課題である。（集計表2ページ教職員アンケート18）</li> <li>○29年度はAETやスクールカウンセラーの配置がなく、高校のAETやスクールカウンセラーに負担を掛けた。</li> </ul>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 学年体制となり、教員も 11 名となった。一人当たりの校務が多い状況はあるが、効率的な役割分担を行い、協働して業務を行う体制を構築する。</li> <li>○ 教職員の人材育成は学校における O J T、研修等の O f f – J T 及び自己啓発 (Self Development) の三者が有機的に連携する中で行われることが効果的である。高校と合同で実施する校内研修会の内容のよりいっそうの充実を図るとともに、文書やデジタルメディアを活用した情報提供を充実させる。また、業務を行うに当たって「背伸びの経験」と「内省」を意識し、一人ひとりが「学び続ける教職員」としての心構えを持ち、P D C A サイクルの中で業務すなわち研修となるような仕事の進め方を探究していく。</li> <li>○ 今年度はスクールカウンセラーが中学にも配置され、高校と一体となった教育相談及び心理教育的支援の体制を構築している。A E T については中学への配置を要望しているが、今年度については実現しなかったため、中高の英語科教員の連携を図り、より効果的な活用を図るようにしていく。</li> </ul>
-----	--

## □学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 27 生徒Ⅱ-5 保護者Ⅱ-4 地域 9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏の学校説明会では生徒による学校説明のプレゼンテーションを行った。</li> <li>○12月のオープンスクールでは、小学生向けの体験授業を企画した。</li> <li>○Science Frontier Junior High School News を発行し、学校の様子を外部に発信した。</li> <li>○学校案内パンフレットに生徒のキャッチフレーズや、1 期生の写真を掲載し、より良いものを仕上げた。</li> <li>○学校説明会、志願説明会、オープンスクールなどの情報をタイムリーにホームページへ掲載している。</li> </ul>
----	---

<p>成 果</p>	<p>○学校説明会の情報をタイムリーにホームページへ掲載し、2日間で2157名の申し込みがあった。生徒による学校説明のプレゼンテーションを試みたが、非常に好評であった。</p> <p>○オープンスクールの情報をタイムリーにホームページへ掲載し、5月のオープンスクールは1603名、12月のオープンスクールも1522名の参加があった。12月のオープンスクールで開催した小学生向けの体験授業は1日で予約がいっぱいになり、授業を受けた小学生や参観した保護者にとっても好評であった。</p> <p>○インパクトのある学校案内パンフレットやScience Frontier Junior High School Newsを作成し、学校の様子を分かりやすく発信することで、一般の方々の本校に対する理解をさらに深めることができている。</p>
<p>課 題</p>	<p>○ホームページは広い範囲に公開しており、発信内容は本校関係者だけではなく、誰でも閲覧できるものなので、内容は十分吟味して作成しなければならないことを教職員だけではなく保護者の方にもご理解いただく必要がある。</p>
<p>改善策</p>	<p>○学校説明会、志願説明会、オープンスクールなどの情報を引き続きタイムリーにホームページへ掲載していく。</p>

#### 4 いじめへの対応に関する項目

##### □いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 I-1, 4、保護者 I-3)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめに関するアンケートを年4回実施するとともに、生徒一人ひとりを対象にした教育相談を行った。</li> <li>○Y-P アセスメントを活用して客観的に学級の現状を分析し、学年全体で情報の共有を図った。</li> <li>○道徳の授業でいじめについて取り上げ、学級での話し合い活動を実施した。</li> <li>○いじめ防止対策委員会を開催し情報の共有を図った。</li> <li>○いじめに関する提言を学級、学年で話し合い、横浜こども会議で代表者が提案した。</li> <li>○学年集会において、いじめは絶対に許されない行為であることを教師から生徒に伝え、いじめに対して毅然とした態度で対応することを示した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「多くの生徒や保護者は学級で良好な人間関係を築いていると思っている。」(集計表3ページ生徒アンケート学校生活等について1、保護者アンケート教育活動等について3)の項目の数値が高い。</li> <li>○教育相談を担当だけでなく、学年の多くの教師が行ったことで、教師と生徒の信頼関係を深めることができた。</li> <li>○道徳の授業だけでなく、他の教科の授業でも話し合い活動が多いため、生徒同士が自分の意見を発信し他の意見を受信することがスムーズに行われるようになってきた。</li> <li>○生徒に関わっている教師が綿密に情報を交換することで、生徒のわずかな変化にも気づき対応することができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間関係が深まるにつれて遠慮がなくなり、軽い気持ちで相手を傷つけるような言動や行動が出てくるのが考えられるので、そのことに対して見過ごすことなく指導していくことが課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の様々な活動を通じて生徒同士がより深く理解しあい、仲間として受け入れ合えるような取組を実践していきたい。</li> <li>○日頃から生徒の人間関係を複数の教員で把握し情報を共有することで、きめ細やかな対応をしていきたい。</li> </ul>